

たすきをつなぎ師走を駆ける 第61回庄原市スター式駅伝大会

REPORT 4



▲第5中継所(庄原中学校下)でのたすきリレー

なったこの日、県内外から101チーム、総勢606人の選手が参加し、男子16キロ、女子15.6キロ共に6区間で

「第61回庄原市スター式駅伝大会」が12月2日、上野総合公園陸上競技場を発着点に開催されました。

冬将軍が一気に訪れたような寒さとなったこの日、県内外から101チーム、総勢606人の選手が参加し、男子16キロ、女子15.6キロ共に6区間で

中学、高校、一般、職域など計6部門で競いました。選手たちは、沿道での多くの声援を受けながら、懸命に1本のたすきをつなぎ続けました。

発着会場では、実行委員会によるぜんざいが振舞われ、また、庄原中学校陸上部OB保護者の皆さんによる「うどん屋台」も出店され、走り終えた選手たちは冷えた体を温めていました。



▲白パイを先頭に競り合う選手

西城産野菜の可能性広げる 西城超元気農産物フェスタ

REPORT 5



▲競り大夫による出品野菜の競り売り

この催しは、西城の上質な農産物を住民皆で評価し合い、生産意欲を高めることで地域を元気にしようと、西城自治振興区のもてなしプロジェクトが企画したもので、各自治会などと連携しながら数カ月かけて準備を進めてきました。

「西城超元気農産物フェスタ」が11月11日、西城体育館で開催されました。

町内128人の生産者から出品された野菜、果物が会場いっぱい並べられ、市の営農指導員の小谷輝男審査委員長ほか4人の審査員が、部門別に優秀作品を選定、表彰しました。

西城川子ども太鼓の演奏で野菜の競り売りがスタートすると、活気あふれる競り大夫の掛け声に合わせて値段が競り上がり、2時間かけて257の出品野菜を完売。地元住民が提供する食のテント村も好評でした。

実行委員長を務めた安井政行さんは「多くの実行委員が心をつなげてがんばった成果。西城産野菜の力と可能性を感じた。来年につなげていきたい」と話していました。

手づくりの交流プログラムで学び合い・分かち合い 西城町5地域で農村都市交流事業

REPORT 6

広島市の広島国際学院大学の学生と教員58人が11月11日、西城町を訪れ、農村体験交流を行いました。

この事業は、学生が農村の役割や文化、課題などへの理解を深め、生きた学問を学びたいという思いと、地域の地域資源を生かした都市部との交流で地域活性化を目指す西城町自治振興区連絡協議会の思いが一致して実現したものです。

受け入れた5地域(グリーンピア大佐村・八銚落合・高尾自治会、油木衣木常会、大屋山下滋さん)は、それぞれ交流プログラムを作成。林業やコメ、野菜、リンゴ、シイタケの学習・収穫体験などで交流を深めました。

参加者からは、心のこもったもてなしへの感謝の気持

ちや、仕事を通して発見した農村の課題と魅力、西城地域活性化のためのアイデアなどを綴った感想が寄せられました。

西城町自治振興区連絡協議会では、学び合い・分かち合うことの価値を今後の活動に生かすため、近く交流事業報告会を計画しています。



▲雨の中、西城町森林組合も協力して、本格的な林業体験(油木衣木常会)

伝統の民俗芸能を後世へ継承 第4回庄原市民俗芸能大会

REPORT 1

「第4回庄原市民俗芸能大会」が11月18日、庄原市民会館で開催され、市内外から約600人が来場しました。

この大会は、市内の各地域で守り継がれてきた民俗芸能を保存、伝承するとともに、民俗芸能への知識と関心を深めるため、同実行委員会が開催しているものです。

4回目の開催となる今大会では、市内の無形民俗文化財のほか、西城紫水高等学校神楽同好会、口和中学校神楽同好会、比婆荒神神楽こども神楽塾の3団体が

特別出演。普段は地域の外で演じられることの少ない民俗芸能が5時間にわたり披露され、来場者は個性豊かな演目をたっぷり堪能していました。

来場者は「伝統的な民俗芸能が着実に新たな世代に継承されているのが舞台を通して感じることができた」と話していました。



▲口和中学校神楽同好会

一人一人が自分らしく暮らせる地域を考える ヒューマンフェスタ“24” in 総領

REPORT 2



▲講演する辻駒さん

し講演。辻駒さんは、人権を守り自分たちの地域を存続

人権について考える「ヒューマンフェスタ“24”」が11月25日、総領自治振興センターで開催されました。

午前中は、安芸高田市川根振興協議会会長の辻駒健二さんが、「地域づくりと人づくり」と題

していただくために川根振興協議会を立ち上げた経緯などの経験談を交え、「人権や地域を守るには行政に要求するだけでなく、自分たちがどうしたいのか提案することが大切。自分たちで考えることに意義がある」と強調していました。

午後からは、迫力ある総領響心太鼓の演奏や元気いっぱいの子ども神楽などのステージ発表が行われ、来場者は手拍子をしながら楽しんでいました。

ヒューマンフェスタ実行委員会副実行委員長の延清圭祐さんは「今回は行政主導ではなく、自治振興区を中心とした住民と行政とが協力して、一緒になって人権を考えることができた」と話していました。

子育てママが「あったらいいな」をカタチに 庄原空市に多くの人

REPORT 3

庄原空市実行委員会などが主催する「庄原空市」が11月4日、市役所市民ひろばで開催され、多くの親子連れなどでにぎわいました。

このイベントは、子育て中のお母さんたちが、日々の生活の中で考えた「あったらいいな」を楽しく実現して「子どもから大人までが参加できる場を作りたい」との思いで企画したものです。

天候に恵まれたこの日、会場は手づくり雑貨や洋服などの販売ブースのほか、エコバックを作ったり、おしゃれを楽しめたりする体験ブース、地元の食が味わえるお店などが軒を連ね、訪れた多くの人の笑顔と活気であふれていました。

実行委員の1人、大歳龍さんは「半年前から準備を始め、みんなで毎日のように話し合い企画を進めてきた。ここで生まれ

た出会いが縁となり、ここで生まれた交流がさらに広がってほしい」と話していました。



▲快晴の下、あふれんばかりの人

高野の夜をあたたく灯す 第19回学園ロードイルミネーション点灯式

REPORT 10

高野の冬の風物詩として定着した「学園ロードイルミネーション」の点灯式が11月29日、高野支所前で行われました。

この日は11月とは思えないほどの冷え込みでしたが、親子連れを中心に約70人が集まりました。

セレモニー終了後、いよいよカウントダウン。支所周辺や学園ロードのいちょう並木に設置されたイルミネーションが一齐に点灯した瞬間、「わぁーキレイ」と感嘆の声が上がりました。

点灯直後には、サンタクロースに扮した市職員によるハンドベル演奏が行われたほか、温かい豚汁も振舞われ、体も心も温まる点灯式になりました。

今年は、ほぼすべての電球がLED化され、より鮮やかな色合いとなったほか、省エネにも一役買ったものとなっています。

イルミネーションは1月15日まで。



▲夜空に輝くイルミネーション

迫力の女太鼓に酔いしれる 吾妻太鼓10周年公演

REPORT 11

今年で結成10周年を迎える吾妻太鼓が11月11日、比和文化会館で記念公演を行い、250人の観客が迫力ある音色と華麗なバチさばきに酔いしれました。



▲力強い演奏を披露

吾妻太鼓は、「仲良く、楽しく」をモットーに比和町の女性たちが結成した太鼓演奏グループで、さまざまなお祭りや催し事で息の合った力強い演奏を披露してきました。公演当日は、これまでイベントなどで競演してきた要害太鼓やエイサー、田楽花田植えなどが駆けつけ、祝いの演奏で10周年に華を添えました。

吾妻太鼓を立ち上げ、代表を務める細田絹子さんは「これまで続けて来られたのは家族や地域の方々のおかげ。これからも活動を続け、地域に貢献していきたい」と、吾妻太鼓のさらなる飛躍を誓いました。

子どもたちが奏でる交流ハーモニー 東城町で音楽交流会

REPORT 12



▲町内保育所年長組による合唱

東城町内の保育所、小学校、中学校、高校が一堂に集まる東城町音楽交流会が11月9日、東城小学校体育館で開催されました。

この交流会は、音楽を通じて子どもたちの交流を深めることを目的に開催され、今年で24回を迎えました。

八幡小学校児童の力強い太鼓演奏でスタート。続いて町内保育所年長組が元気いっぱい「勇気100%」を歌い上げ、小奴可小学校児童は金管鼓笛に挑戦し、会場を盛り上げました。最後は、東城中学校吹奏楽部の演奏に合わせて、会場全員で「もみじ」を合唱し、交流を深めました。

演奏を終え舞台を降りる子どもたちは、充実感と達成感に満ちあふれていました。



▲小奴可小学校児童による金管鼓笛

市内各地域がのろしでつながる 戦国時代の通信手段を再現

REPORT 7



▲市役所を出発する陸友会の皆さん

「のろし上げ」を再現するイベントが11月23日に開催されました。

「人と人、地域と地域の絆づくり」をテーマに、今回は新たに東城地域が加わり、市内全域、12カ所がのろしリレーでつながりました。

また、新企画として「飛脚による伝令」も行われ、市役所前で永井忠司実行委員長が読み上げた伝令文を、庄原陸友会のメンバーが飛脚となって7カ所ののろしポイントへ届けました。

のろしプロジェクト実行委員会ではのろし上げに参加する自治振興区を募集しています。このイベントに関するお問い合わせは自治振興課（☎0824-73-1209）まで。



▲黒岩城址(口和地域)会場の様子

「温泉」と「卓球」がつながる交流 庄原さくら温泉ラージボール卓球大会

REPORT 8

11月20日・21日の両日、「全国オープン温泉卓球中国シリーズ2012 庄原さくら温泉ラージボール卓球大会」が庄原市で開催されました。

この大会は、中高年のスポーツへの参加促進とラージボール卓球を通じて交流を深めることを目的に、温泉のある市町村で毎年会場を移しながら開催されています。今年の開催地となった庄原市では、「かんぼの郷庄原」が宿泊・交流会場、庄原市総合体育館が競技会場となり、全国各地から240人が参加しました。

競技は、男女各シングルス・ダブルス、混合ダブルスの3部門で行われ、温泉卓球というのどかなネーミングとは名ばかりのハイレベルな熱戦が繰り広げられました。競技には招待選手として、1979年世界卓球選手権ピョンヤン大会男子シングルス優勝者の小野誠治さんも競技に参加し、その技術の高さを披露していました。

また、期間中は、多くの皆さんが「さくら温泉」や「備北丘陵公園ウインターイルミネーション」を訪れるなど、晩秋の庄原を楽しんでいました。参加した選手は「おもてなしの心に感動した。また、プライベートで来たい」と喜んでいました。



▲各コートで白熱のラリーが展開

みんなでつくる「まちなか広場」 憩いの庭で植栽作業

REPORT 9

紅梅通りまちなか広場で11月9日、植物の植え付け作業が行われました。

まちなか広場は、市内中心地の憩いと交流スペースとして昨年7月にオープンし、ふるさと大使の石原和幸さんがデザインした「里山のくらし」の庭があります。この庭に庄原の里山をイメージする植物を植えようと、地元自治会など多くの市民の皆さんから提供された、南天やアオキ、ユキノシタなどの植物約200点を、ボランティアで参加した30人が植え付けました。

参加者は「懐かしい雰囲気のある三軒茶屋もあって、庭を眺めながら憩い交流ができる」と喜んでいました。



▲石原さんも参加し一緒に植栽